

北海道ニューリーダーネットワーク検討会議（第1回）

主な発言内容

1 ネットワークの構築について

- 他の地域を知ることや他の地域で先進的な取組を行っている方との交流は、自らの地域が動き出す一因になるのではないか。
- 各市町村もニューリーダーネットワークの取組を理解し、協力・連携してくれないとうまく機能しない。
- 北海道が、各地域で横の繋がりをつくりなさいと言えば、嫌でもまずお互いが顔を合わせることになり、そこから自然に横の繋がりが出来てくる。そうすれば、今までそれぞれ別でやっていたことを今度は一緒にやれるかもしれないし、新たなイベントや事業等の発想が出てくるかもしれない。
- 市町村のネットワークは、本来、市町村が担うべきだと考える。
- 市町村単位、振興局単位、全道等、いくつかのレイヤー毎にネットワークを形成してはどうか。そのネットワークに参加しただけでも、化学反応が起こると思うので、小さな化学反応を起こしながら、それを抽出して別のレイヤーを作っていくというやり方もある。
- ネットワークは、各振興局単位でやってもらった方が良い。
- 行政による SNS ネットワーク構築は必要ない。関係性ができれば、自然発生的に結びつくものであり、そうなるような組み立てをすることが大切。

2 参加者の条件など

- 行政や既存組織が集まって、参加者を選定するとそこから漏れる任意団体等が出る。
- 各地域には様々な組織があり、それぞれが頑張っているリーダーがいる中で、振興局管内から年1名しか参加できないとなると、選ばれた地域リーダーは、逆にやりづらいのではないか。
- 振興局単位で1名となると、参加者は、地域に研修内容を伝達しなければならない。既存組織から選ばれた人であれば、その組織力を活かし、伝達がきちんとできる。定員を増やすのであれば、既存の団体からの推薦にはこだわらない。
- いろいろな団体に積極的に声をかけても良いが、その中から参加者を選定（他薦）するよりは、参加したい人（自薦）に参加してもらった方が良い。
- 市町村がリーダーを再発掘することが大切。

- この事業に参加した後、仕事で繋がりが持てたり、地域に講師として来てもらえたりといった関係性への発展という意味で、人数は、講師に顔と名前を覚えてもらえる15名程度が良い。
- 3カ年で多くても100名程度とし、できるだけたくさんの人に参加してもらうというのも方法の一つ。

3 カリキュラムについて

- 地域リーダーによる新たなネットワークであれば、参加したいと思える何か魅力的な取組が必要。
 - ・ 大手の社長や知事等の講演及び交流会を行ってはどうか。
 - ・ 地域リーダーが知事と一緒にこれからの北海道の地域づくりをどうしていくのかについて考える場を設けてはどうか。
 - ・ 参加者が自分のやりたいこと、もしくは地域と一緒にやりたいことについてプレゼンする場を設けて、情報・意見交換をする場を設けてはどうか。
 - ・ 参加者全員の意見をまとめるファシリテーション能力が求められているので、ワークショップを行ったらどうか。
 - ・ ネットワークのレイヤー毎に事業を構築してはどうか。
 - ・ 参加者でワークショップを行ってはどうか、何かを一緒につくり上げることで、お互いを理解することにより、その後の関係が構築しやすくなる。
 - ・ 自分のビジネスだけを成功させたいという人が来ないようなプログラムにすれば良い。
 - ・ 誰かの話を聞いて「凄かったね」で終わってしまってはダメ。互いに連携・協力と考えた時に、戦略的に道内でエコシステムをつくるという目的を掲げたネットワークだと集まりやすいのではないか。ビジネスで繋がれるような発見をつくっていきたいというのが私の考え。
- 30代から40代は仕事や子育てで最も忙しい世代であり、何度も集まることは困難。例えば、講義はビデオ・オン・デマンド、会議はスカイプで行う等はどうか。ただし、面識のない者同士が初回からSNSを活用しても議論がかみ合わない。リアルとSNSを融合していく必要がある。

4 その他

- 一番ネットワークを欲しているのは、地域おこし協力隊員等の移住してきた方々だと感じており、話を聞いてみたい。
- この事業と平行して、将来の地域リーダーである若年層の育成についても考える必要がある。